

4 安全教育と知識

安全に関して受けたことがある教育や指導では、4か国ともに選択した者の割合が高かったのは「交通安全」「火災時の避難訓練」「地震や台風など自然災害時の避難訓練」である。「インターネットによる被害の防止」も4か国とも6割以上となっている。

最も必要な安全教育について、日本は、「地震や台風など自然災害時の避難訓練」「インターネットによる被害の予防」「交通安全」が上位となり、米中韓と比べて突出して高い。

安全知識の獲得源では、4か国とも「学校」が最も多い。また、米国は「家庭」、中国は「家庭」「インターネット」「新聞や雑誌、本」も多い。

安全学習の最も有効な方法として、日中韓とも、「模擬訓練」が最も多く挙げられた。米国は「話し合う」が2割強で、4か国中最も高かった。

① 安全教育

「病気の予防」や「交通安全」、「災害時の避難訓練」など安全に関する12項目を示して、この中からこれまでに受けたことがある教育や指導を全て選択してもらった。図4-1は日本の回答率の高い順から並べたものである。

図示のとおり、4か国とも選択した者の割合が高かったのは「交通安全」「火災時の避難訓練」「地震や台風など自然災害時の避難訓練」で、いずれも75%以上となっている。4か国の比較では、日本は「交通安全」(90.3%)、「地震や台風など自然災害時の避難訓練」(84.7%)、「インターネットによる被害の予防」(84.2%)、「病気の予防」(76.0%)、「運動中のけがの予防や処理」(65.7%)の5事例について受けたことがあると回答した者の割合が最も高い。米国は「火災時の避難訓練」(92.1%)、「食べ物の安全」(71.6%)、「野外活動における安全」(64.7%)が最も高く、韓国は「心肺蘇生などの応急措置」(88.9%)、「暴力や犯罪から身を守ること」(78.1%)が高かった。中国は、「心肺蘇生などの応急措置」(36.8%)、「運動中のけがの予防や処置」(38.8%)、「青少年にふさわしくない有害情報から身を守ること」(45.5%)、「暴力や犯罪から身を守ること」(47.0%)がいずれも日米韓と比べて低い。

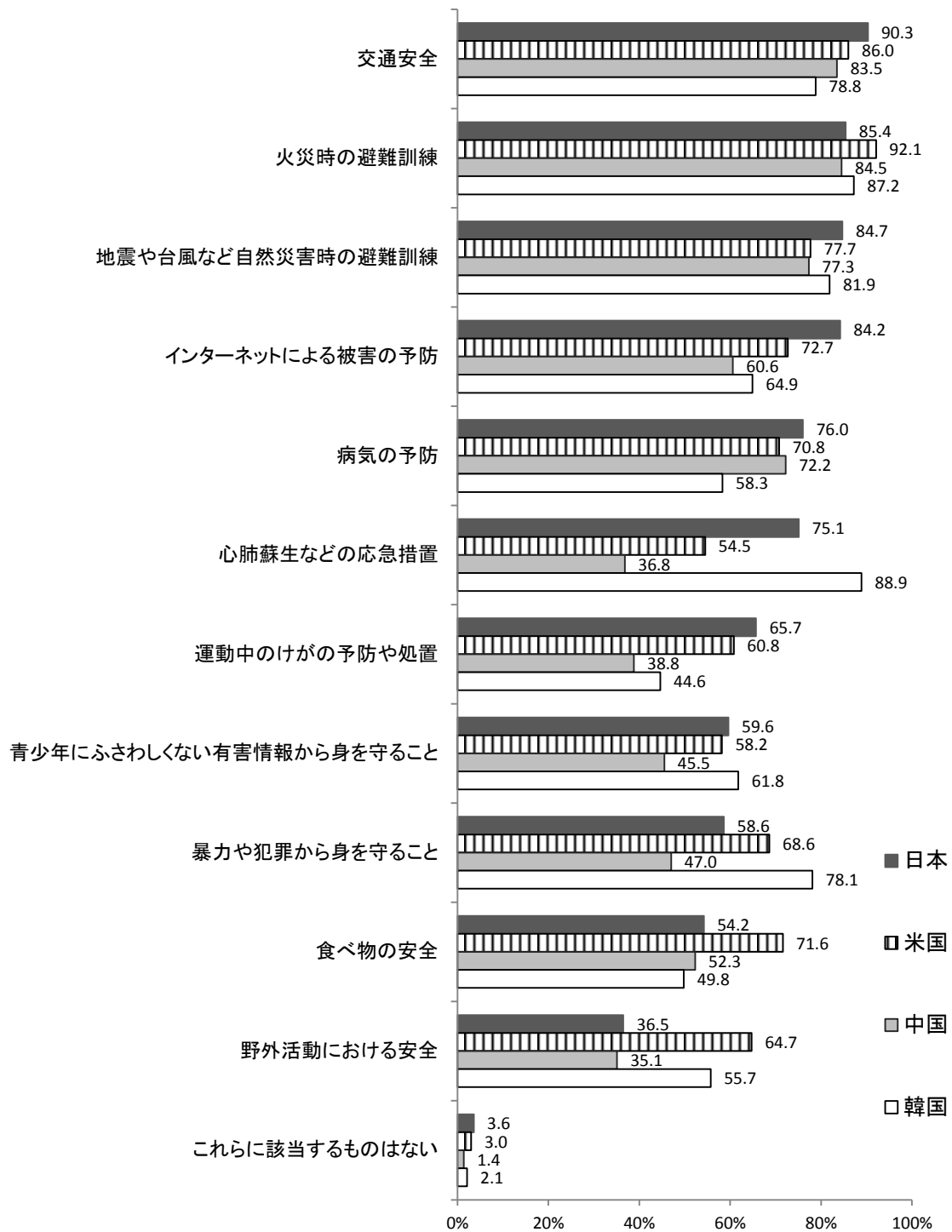


図 4-1 今まで受けたことのある安全教育(複数回答)

次に、同じ設問から「あなたにとって今、最も必要な安全教育はどれだと思うか」として一つを選択してもらった。4か国の比較で、日本の高校生が選択した割合の高かったのは、「地震や台風など自然災害時の避難訓練」、「インターネットによる被害の防止」、「交通安全」である。米国が上位に挙げたのは、「心肺蘇生などの応急措置」と「暴力や犯罪から身を守ること」だった。中国が上位に挙げたのは、「暴力や犯罪から身を守ること」「運動中のけがの予防や処置」「青少年にふさわしくない有害情報から身を守ること」だった。また、中国は、「運動中のけがの予防や処置」「青少年にふさわしくない有害情報から身を守ること」「食べ物の安全」「野外活動における安全」を挙げた者の割合が4か国中では最も高い。韓国が上位に挙げたのは、「心肺蘇生などの応急措置」と「暴力や犯罪から身を守ること」で、その割合は4か国中最も高い（図4-2）。

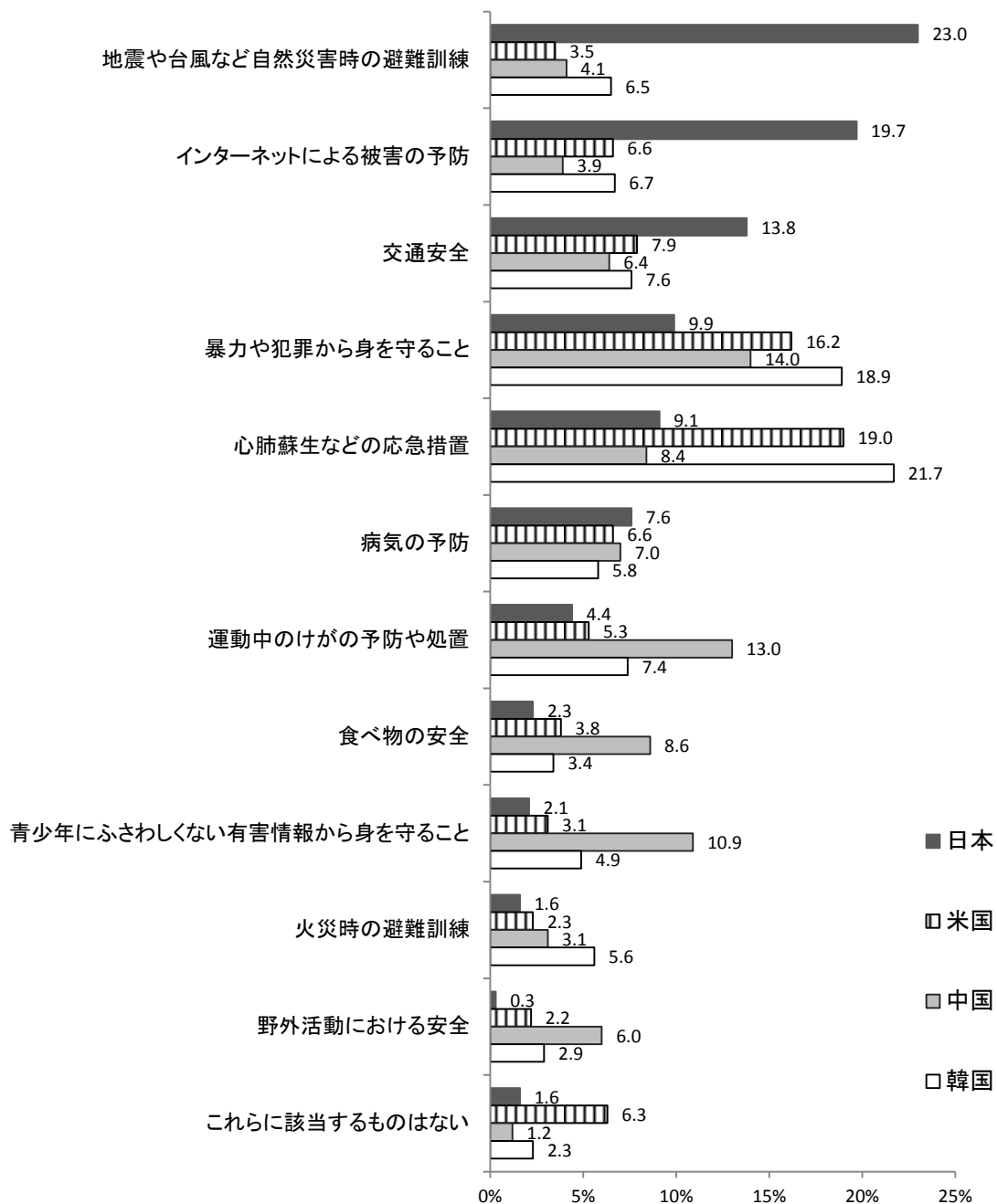


図4-2 あなたにとって今、最も必要な安全教育はどれだと思うか(単一回答)

② 必要とする安全措置

「病人やけが人の応急処置のための設備や器具を備える」など、学校外の活動で身の周りの安全を守るために必要と思われることについて6項目を挙げ、「とても必要である」「まあ必要である」「あまり必要でない」「全く必要でない」の4段階で聞いた。

4か国の高校生が「とても必要である」と回答したのは、「病人やけが人の応急処置のための設備や器具を備える」「安全面に不安のある古い施設を定期的に点検し、修理する」「危険な場所に標識や防護柵を設置する」でいずれも55%を超えている。中国の高校生は、6項目の設問全てにおいて「とても必要である」と回答した者の割合が4か国中で最も高く、韓国は、「危険な場所に標識や防護柵を設置する」を除く5項目で、中国に次ぎ高い割合となっている（図4-3）。

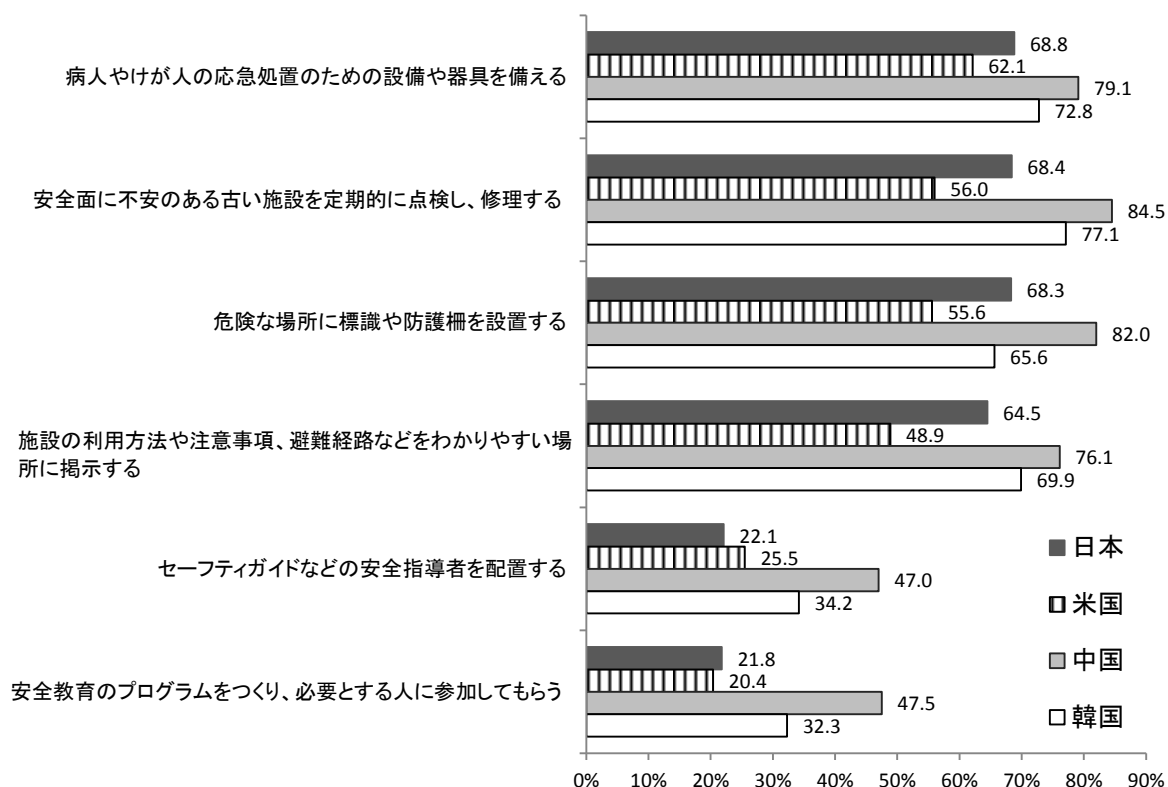


図4-3 学校外の活動で、身の周りの安全を守るために必要だと思うこと
（「とても必要である」と回答した割合）

③ 安全の知識

「普段、安全についての知識をどこから得るか」について、「学校」「テレビやラジオ」など10項目を挙げて該当するものを全て選択してもらった。選択した者の多かったのは、4か国とも「学校」でその割合は80%を超えている。

4か国の比較では、中国は「学校」「テレビやラジオ」「インターネット」「新聞や雑誌、本」の4項目が60%を超えて4か国中最も高く、米国は「家庭」、「友だち」、「コミュニティの行事や活動」、「課外活動」の4項目が4か国中最も高くなっている。日本は、「インターネット」と「家庭」が4か国中最も低い（図4-4）。

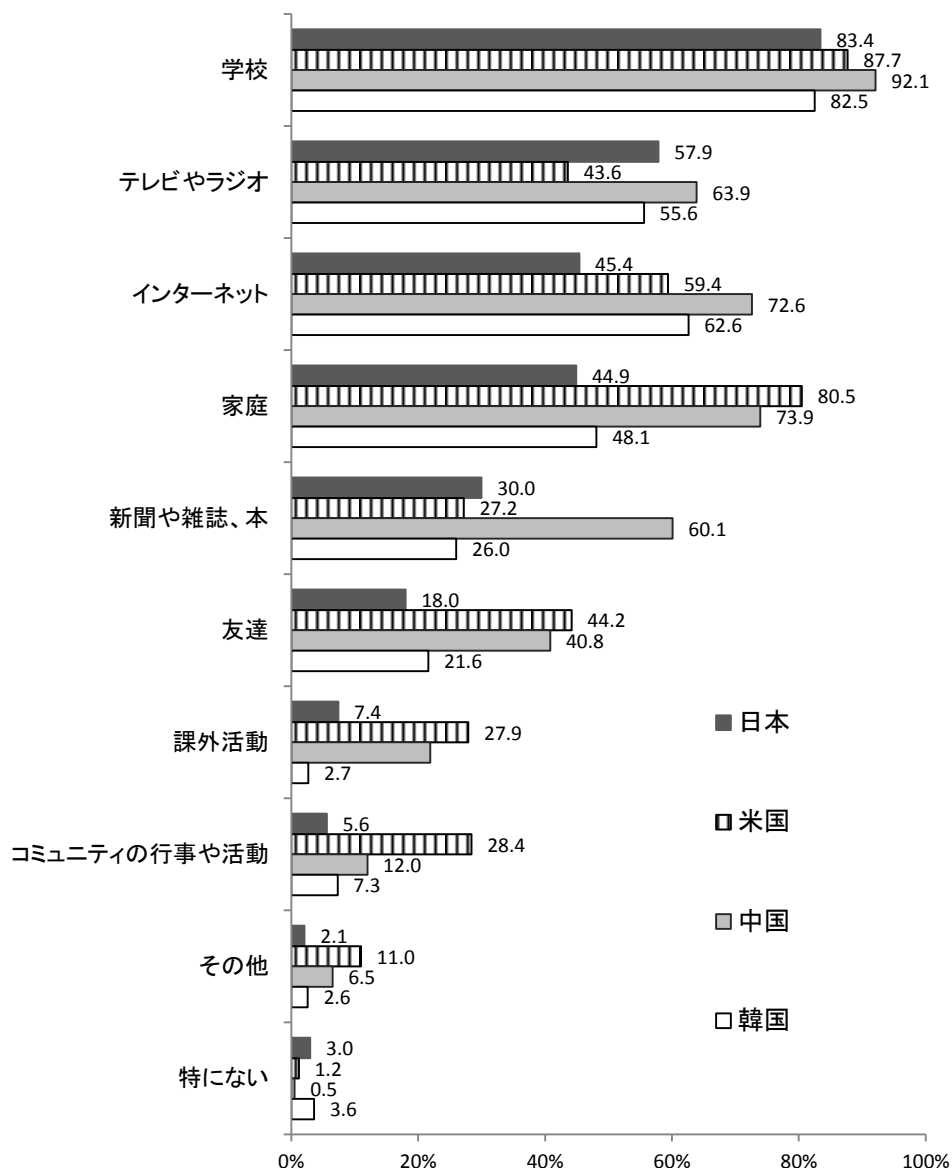


図 4-4 普段、安全についての知識をどこから得るか(複数回答)

次に、「どの方法で安全について学んだか」について、「先生などの話を聞く」「映像を見る」など7項目を挙げて該当するものを全て選択してもらった。選択した者の多かったのは、4か国とも「先生などの話を聞く」「映像を見る」でいずれも60%を超えている。4か国の比較では、中国は「先生などの話を聞く」「模擬訓練」「手引きや書籍を読む」の3項目が、いずれも65%を超えて4か国中最も高い。米国は「話し合う」の割合が63.5%で最も高くなっている(図4-5)。

また、安全について最も有効な方法について同じ設問で回答を求めたところ、日中韓の3か国は「模擬訓練」を選択した者の割合が高く50%前後となっているのに対して、米国は「模擬訓練」「話し合う」「先生などの話を聞く」がそれぞれ20%前後となって分散している(図4-6)。

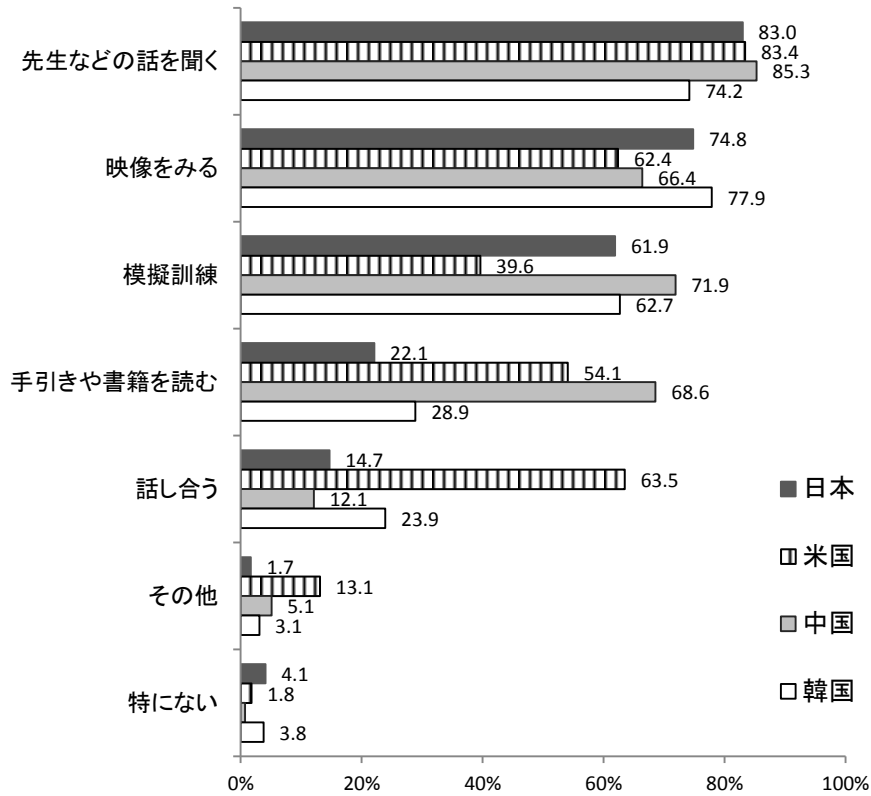


図 4-5 今までどの方法で安全について学んだか(複数回答)

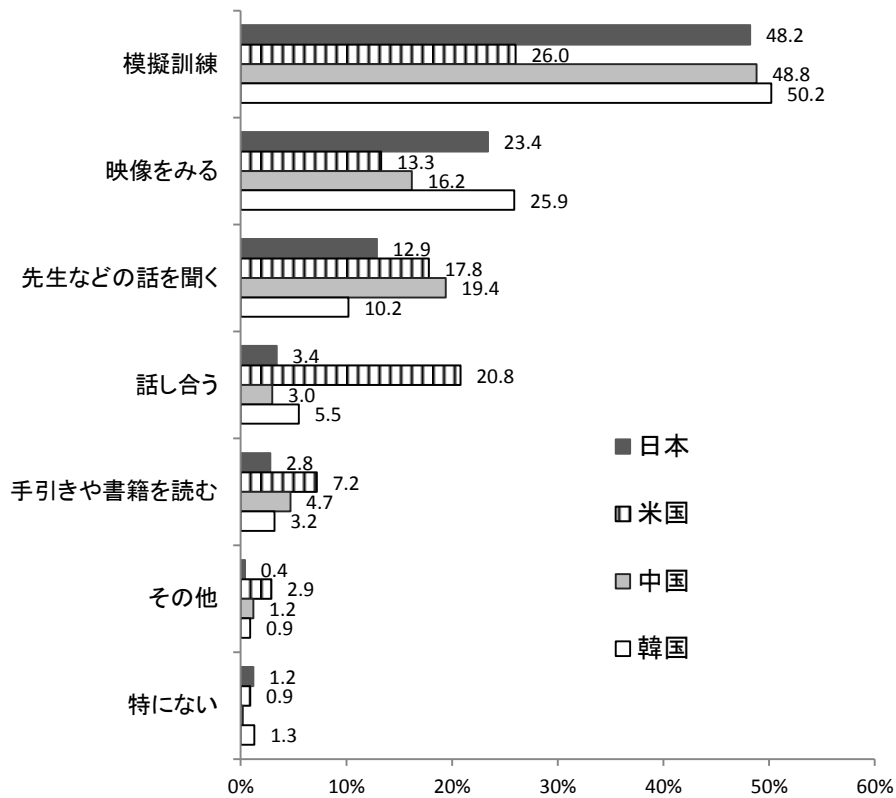


図 4-6 安全について学ぶために、最も有効な方法はどれだと思うか(単一回答)

④ 応急処置

「足の捻挫」や「手足のやけどや水ぶくれ」を例示して、どのような処置をすべきかについて、それぞれ5つの処置事例を示して回答を求めた。まず、足の捻挫については、「冷やす」と回答した者の割合が日米中の3か国で高く、50%を超えている。4か国の比較では、日本の高校生は「冷やす」と回答した者の割合が高く、72.3%となっている。韓国は「薬を塗ったり、湿布を貼ったりする」が高く、39.3%となっている（図4-7）。

「手足のやけどや水ぶくれ」の処置では、4か国とも「冷たい水で冷やす」の割合が高く50%を超えている。なお、米国は「水ぶくれのところに消毒液を塗る」も23.1%と他の3か国に比べて高い割合となっている（図4-8）。

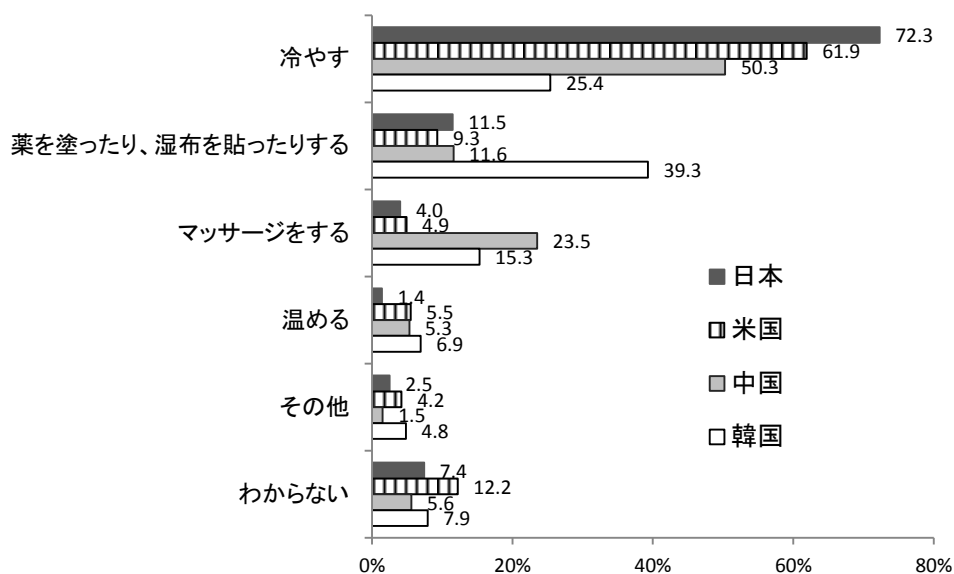


図4-7 足を捻挫した場合、まずどの方法で処置すべきだと思うか(単一回答)

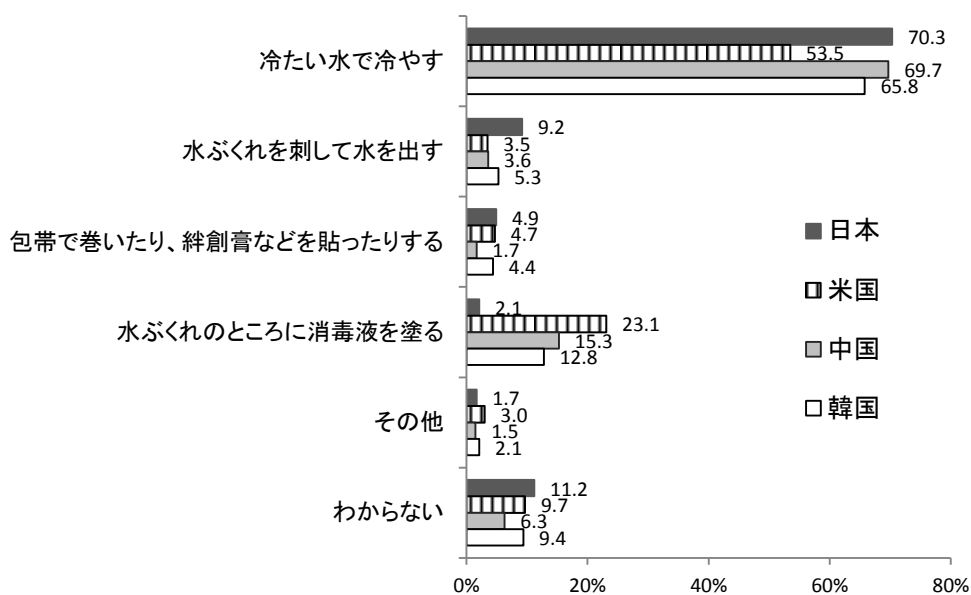


図4-8 手足のやけどで水ぶくれができた場合、まずどの方法で処置すべきだと思うか(単一回答)